**第1学年2組　算数科学習指導案**

（1）目標

　何十―何十、繰り上がりのない2位数―1位数（位数＋2位数）の計算の仕方を考える。

（数学的な考え方）

（2）展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学習活動 | 指導上の留意点 | 時間 |
| 問題場面  折り紙が50枚あります。  30枚使うと残りは何枚になるでしょう。   1. 本時の問題場面について知り、課題をつかむ。   C1　使うんだから引き算で　　いいんじゃないかな。  C2　50－30だよ。  課題  50－30はどうやって計算するのか考えよう。  2　　50－30の計算のしかたを考えよう。  　C1　10が5つの数から、10が3つの数を引くから5－3で2、だから20だね。  　C2　一の位には何も数が入っていないから0かな。十の位に10が5つあるものから、十の位に10が3つを引くから、十の位に10が2つ残った。だから20かな。  3　1の位にも数がある場合を考える。  C1　5－6引くんだよね。.あれれ、5のほうが小さいから引けないよ！  　C2　まず、一の位から考えよう。56は一の位に1が6つある。6は一の位に1が6個で、これを引くから、一の位は0だ。56は十の位に10が5個ある。6は十の位に10が6個で、これを引くから、一の位は0だ。  4　他の数について考える。  　　3   1. 90－80 2. 70－40 3. 60－20 4. 100－30   4   1. 56－6 2. 35－5 3. 45－2 4. 58－3   　5　教師の説話を聞き、まとめをする。 | ○場面を把握して、どんな式を立てればよいのかを考える。  ○全体に50－30と立式してよいのかを問い、何十―何十の計算について課題意識を持たせる。  評　何十―何十、繰り上がりのない2位数―1位数（位数＋2位数）の計算の仕方を考える。（数学的な考え方）  ○図や絵、ブロック等を用いて、式の意味を考える。  ○50,30という数はどのようなまとまりなのかを考える。  　50は10を5個、1を0個集めた数。  　30は10を5個、1を0個集めた数。  ○10の位、1の位のそれぞれを考えなければならないことを理解できるようにする。  **56－6の式はどうしよう。**  ○56,6という数はどのようなまとまりなのかを考える。  　56は10を5個、1を6個集めた数。  　 6は10を0個、1を6個集めた数。  ○何十―何十の時の考え方を引き出しながら、問題が解けるよう支援する。  ○計算問題を解く。  ○答え合わせをする。  ○正答状況を聞き、児童が説明を理解したかどうか確認する。  ○まとめ  何十―何十の計算をするときは、足し算と同じで十の位と一の位を別々に考えよう。  56－6のような形になっても、この考え方は同じだよ。 | 7  15  10  10  3 |

1. 備考　在籍児童数35人
2. 板書計画

